



縁をつむぐ国際協力

特定非営利活動法人 JIPPO (十方)

巻頭言 大震災と近代文明の方向転換 —1755年11月と2011年3月の歴史的意義—

JIPPO 専務理事 中村 尚司

リスボン大震災の波紋

1755年11月1日午前9時40分、リスボン沖を震源とするマグニチュード9規模の巨大地震が発生した。約40分後にイベリヤ半島と北アフリカの西部海岸を襲った津波は、その後の数日間に及ぶ大火災とともに、王宮を含む家屋を破壊し、数万人の人命を奪った。巨大な軍事力で地球上の海域や陸地を支配していた、ポルトガルとスペインの世界帝国は、この大震災を契機に瓦解の坂を転げ落ちた。

揺らぐはずのないカトリックの強国を揺るがした大震災は、ヨーロッパ近代に新しい展望を開いた。震災の意義に想いを巡らしたヴォルテール、ルソー、カント等の啓蒙学派は、1789年のフランス革命を思想的に準備した。その結果、君主制に代わる「自由・平等・友愛」の共和制が西欧近代に誕生した。

東日本大震災は、地震と津波に加えて原子力発電所事故を引き起こし、日本近代の進路に大きな方向転換を促している。日本近代ばかりでなく、朝鮮半島、中国大陸、東南アジアなどにおける文明のあり方を変えるほどの大きな影響を及ぼすかもしれない。ここまでは、NPO法人JIPPOの開設時に記念講演をお願いした、明石康さんから伺ったお話である。

福島被災地の人びと

リスボン大震災からフランス革命までに史実をたどっても、30年以上の過渡期がある。日本でも松尾芭蕉が「奥の細道」で、「象潟や雨に西施がねむの花」と詠んだ名勝は、850年の大地震で形成され、芭蕉の死後の1804年、大地震で消滅している。リスボンや象潟のひそみに倣っても、福島の大震災は未完の物語である。原発事故の終息だけでなく、文明史的な意義も未完である。

さしあたりJIPPOでは、募金活動をはじめることとし、救援物資を送ることから手掛けた。4月からは風評被害にあらがい、福島物産の販売活動を始めた。また福島県教育委員や相馬高校PTAの要請を受けて、築地本願寺と東京教区教務所からエアコン38台を寄贈していただくよう関係者間の橋渡しをした。



相馬高校へのエアコン寄贈の目録を手渡す東京教区教務所 山本所長

小中学生の野外活動支援

原発被災地では、多くの学校が倒壊したり、避難所に転用されたりしている。そのため比較的被災の少ない校舎で数校が統合教育を行っている。狭い教室から外へ出ようにも、運動場やプールは使えず、窓も開けられない校舎も多い。遠足や修学旅行も行えない。

せめて夏休みだけでも、小中学生を被災地の外へ招きたい。そのように考えJIPPOでは長野県の八ヶ岳の麓、京都府の愛宕山の麓、富山県の劔岳の麓に誘い、広々とした野原や山林で動植物の観察、夜空の天体観察に誘う企画を立てた。しかし自らの力だけで実現できるのではなく「仏教NGOネットワーク」「赤い羽根中央共同募金」「京都地域創造基金」などの助成を得たり、本願寺関連施設、京都市職員厚生会、京都市ユースサービス協会、各自治体や施設、龍谷大学の学生らの協力を得て試みている。詳しい報告は次号以降に行う。

JIPPOは、公権力を行使できるわけでもなく市場システムを左右できる経済力もない。それでも数十年後に振り返ってみれば、東アジア文明の大転換にささやかな貢献ができたと自負できる事業を進めたいものである。

スリランカ・ハプタレーにおける幼稚園支援 第2回 幼稚園教員研修を実施

兵庫大学短期大 三井圭子先生が現地を視察

JIPPOはスリランカのフェアトレード事業に関連し、ウバ紅茶の産地、ハプタレーにおける農民の生活向上のための事業を行ってきました。中でもプランテーションの女性労働者が昼間子どもたちを預ける幼稚園に着目した支援プログラムは、昨年3月のタミル語による幼稚園教員研修と8月に完成したハプタレー市立幼稚園の増改築工事でタミル人茶園労働者の生活環境向上を図る支援として一定の成果を挙げました。

しかし、この地域にはタミル人同様シンハラ人の貧困度も高く、経済の向上は困難な状況です。そうした中、シンハラクラスの幼稚園教員から「ぜひ自分たちも研修を受けたい」という声もあがり、地域全体の人材育成、教育への支援の必要性を感じて、第2回目の幼稚園教員研修をシンハラ語で今年3月に実施することにしました。

研修には日本から幼児教育の専門家として兵庫大学短期大学部保育科講師の三井圭子さんを派遣し、実技講習を行うとともに、



先生の動きをじっと見入る



三井さんの手遊びに自然と動きを合せる受講者たち

幼稚園の視察にも同行してもらいました。また研修の企画と講師は前回同様現地NGOのスランガニ教育基金(馬場繁子さん代表)に委託し、スリランカで求められる幼児教育に日本の知識、技術を加味した質の高い研修になりました。

研修や視察を繰り返すことで幼

稚園の関係者だけでなく母親や地域全体の意識を高め、幼児教育向上の必要性が認識されることを期待して事業に取り組んでいきたいと思ひます。

2009年度 第1回幼稚園教員研修(タミル語)の評価調査結果

- I 調査方法:スランガニ基金とJIPPOが相談し質問票を作成。タミル語に翻訳し研修受講者全員(40人)に郵送し、31人から回答を得た。
- II 調査結果:(数字は回答数)
- ①研修は実用的だったか: 大変実用的だった(31)
 - ②研修のレベルは的確だったか: 的確だった(30)、未回答(1)
 - ③研修の場所、食事、日時などは的確だったか: はい(30)、いいえ(1)
 - ④最も役に立ったプログラム(3つ選択): 幼稚園で学ぶこと(7)、文字練習(2)、ゲームと歌(8)、教える環境づくり(3)、手遊び(7)、健康と栄養(6)、タミルソング(1)、救急法演習(6)
 - ⑤配布された用具を使用しているか: 【救急箱】はいいつも(12)、はい時々(17)、いいえあまり(2) 【ワークブック】はいいつも(19)、はいときどき(12)
 - ⑥研修で学んだことを同僚と共有したか: はい(31)、いいえ(0)
 - ⑦研修後、幼稚園に変化や改善があったか(自由記述回答を集約): 歌、手遊び、ゲームなどの活動に積極的かつ興味を持って取り組むようになった(12)、子どもが読み書きと栄養について興味を持つようになった(2)、子どもが環境について興味を持つようになった(1)、子どもの心が成長した。教員が積極的かつやる気を持って取り組むようになり子どもの理解が促進された。ゲームを使って英語を教えられるようになった(1)
 - ⑧研修に参加して自身の態度や考え方に変化があったか(自由記述回答を集約): 教員がよりよく教えられるようになった。幼稚園の環境を清潔かつ安全なものに整えるということを学んだ(21)、もっと研修に参加したいと感じるようになった(3)、積極的になった(2)、何らかの変化はあると思う(2)、子どもの心と体の成長について学び理解が深まった(1)、栄養の習慣に変化がみられる(1)、読み書きの概念に改善がみられる(1)
 - ⑨研修をより良くするための提案(自由記述回答を集約): もっと研修を受けたい(25)、子どもにも研修をしてほしい(1)、保護者にも研修をしてほしい(1)、タミル語での研修を続けてほしい(1)、手遊びをもっと学びたい(1)、ワークブックをもっとほしい(1)
 - ⑩その他(自由記述): この地方でタミル語の研修が行われたのは初めてのことでした。今まで政府もNGOも実施できていなかったのです。今後も継続していただけるようお願いいたします。

スリランカ・パプタレー地区幼稚園教員研修について報告

兵庫大学短期大学部保育科 講師 三井 圭子



シャボン玉をやってみせる三井さん

1. はじめに

パプタレー地区はスリランカ南部の中央高地にあり、3月の気候は日本の秋のような過ごしやすく日本の春から秋の花が一斉に咲いている。日本では園芸店で販売されている花も、自然に咲いているのである。茶畑が広がり、緑一面の中の傍の山肌面や家々の回りに花たちが咲いている。

環境は素晴らしいと思うが、そこに住んでいる人々は、当たり前で、あまり関心がないということ、もったいない気がする。

JIPPOのスリランカ・パプタレー地区幼稚園支援事業として行った第2回の現地幼稚園教員研修でワークショップの1つを担当させていただいた。また、地区の4つの幼稚園の視察をした。

日本の幼児教育の事例及び実践を通して、少しでもお役に立つことを願っておこなった。

2. パプタレー地区幼稚園視察

日時 2011年3月28日

(1) Omi Annal Pre-School

園児3歳児～5歳児 55人

教員2人

教員は昨年度のJIPPOの研修を受講した。4か所のうち1番、教員の熱心さが伝わってくる幼稚園であった。1保育室で机、椅子に子どもたちはとても行儀よく座っている。3歳児が泣かないでいるのに驚く。室内は、電球が2か所。外から入るとなかなか周りが見えない。

子どもも若い教員も笑顔で迎えてくれ、歓迎を込めて何曲も歌を歌ってくれる。楽器はなくすべて口伝えのようだ。外に出て、並んでリズム体操をした。先生が前に立ち、子どもたちは先生の通りにまわっている。自由体形ではない。

室内は掲示物が多く一面に色々と貼ってある。子どもが手にとって遊ぶように研修で教えられたものも、丁寧にナイロンでカバーして展示している。「とり」「やさい」等テーマを決めて数量、形、色、生き物や物の名前を教えている。子どもが手にとって遊ぶ物を身近に並べ置けばいいのではと思う。清潔面では、手洗いの水が置き水でトイレと同じ場所なので衛生面に不安がある。園庭は遊具もなく、下水がそのまま流れ、段差、石積みがあり、犬の糞尿もあり、子どもたちにとっては園庭とは言えない状態で整備の必要性を思う。

シャボン玉、紙風船、ゴム風船などプレゼントする。じーっとして



先生のするとおりにリズム体操をまねる

遠慮がちな子どもたちであった。

(2) Little Rose Pre-School

園児20人

教員2人

ちょうど小学校が試験中のため、休園しているということで室内を見る。若い教員が来たので話を聞く。幼稚園といっても小学校の校舎を小学生1・2年と1教室を合同で使用していて、わずかなスペースである。部屋は薄暗く、電気もない。小学生が使用しているであろう椅子等は散乱している。小学生の試験は別棟の校舎で行われており、幼稚園を休園する必要があるのか疑問に思った。

小学校の校長先生は、支援がなく、幼稚園へ入る子も少なく、何も教えられないまま小学校に上がるので1年生の指導に困っているとの話をされた。トイレも使用していない。石ころ、枯れ葉が便器にたまり周辺も掃除などしていない様子であった。幼稚園教員も無報酬のため(保育料を保護者が支払わない。支援もない)意欲がなくなっているように見受けられる。



(3) Bahradi Pre-School
園児3歳～5歳児 63人
教員2人

訪問した時はちょうど帰る準備をして椅子にすわっていた。私たちが入ると3歳の子どもたちが泣きだした。見知らぬ大人が入って来たのであたりまえの子どもの姿である。犬も教室の中に入ってきて驚く。この日の教員は新人の1人だけで、子どもにあまり指示もせず、戸惑っている様子であった。

騒然となっていた子どもたちがスランガニ基金の馬場さんの歌、手遊び等で少し落ち着く。4歳、5歳は紙風船やロケットゴム風船に興味を示すが、遊び方はわからない。紙風船を手でポンポンつくど嬉しそうに笑顔を見せた。少し取り合ったり、まるめたり子どもらしいしぐさに、自然さを感じる。

教室周辺は遊具が3台ほどあったが、地面は整備されていない。園庭らしいところも本当に狭い。掃除や土を入れて整備をすると、子どもが安全に遊べるのではないかと感じる。



馬場さんの手遊びに集中する子どもたち

(4) Haputale Montessori Pre-School
園児30人
教員2人

昨年度にJIPPOの支援で、教室の増築、園庭の整備がされた幼稚園である。遊具が数多くあった。園庭も木の葉など掃き清められていた。テラス、手洗い、便所、倉庫、狭いホール空間がありゆとりがあった。保育室内は日ざしが差し込みとても明るい。幼稚園の雰囲気を感じられた。



ハプタレー市立幼稚園の子どもたち

のは避けるべきであると感じる。ここから入ってはいけない場所であれば、子どもに約束を守るようにするのが、教育であろう。早朝だったので、子どもたちの遊ぶ姿がなかったのが残念だったが、広い園庭でのびのびと遊んでいる姿が想像できる。砂場で遊ぶという活動はないのだろうか、どの幼稚園にも砂場はなかった。

3. ハプタレー地区幼稚園教員研修会について

当日はこの事業を要請した前ハプタレー市長はじめ、行政官の方々が多数出席され、開会式が始まる。宗教的な開会の行事で、参加者全員の献灯から始まり、東日本大震災の犠牲者への黙とうを奉げていただいた。

研修会には35人の教員の皆さんが参加し、スランガニ基金の馬場繁子さんの研修プログラムを進行した。新任の先生から30数年のベテランの先生まで、経験の差のあるメンバーであるが皆さんの意



ごみが散乱し野良犬が行き交う園庭

シンハラ人とタミル人とに分け、それぞれの教員で担当している。教室の机、椅子の配置も先生用の机の前に整頓され学校の授業の雰囲気がある。同じ敷地内のコミュニティーセンターとの境界に、有刺鉄線が張られていたので驚く。小さな子どもたちの生活や遊びの場であるので、なるべく危険なも



欲が感じられる。一人ひとりに今回の研修資料であるテキスト、ノート、工作の道具、救急セットが配布された。

研修は、8時30分から午後4時5分までぎっしりつまっている。イングリッシュソング手遊びや身体表現遊び。子どものようにはしゃぎながら、明るい顔で、履物を脱いで素足で、楽しんでいる姿があった。体を動かした後は、丁寧にテキストを見ながら復習をする。歌詞を覚える、子どもに何を教えているか具体的な説明がある。子どもたちにも、英語に親しんでいくというねらいがあり、日常よく使う英語の単語での歌、身体表現遊びであった。教員は教えるという立場であることの意識が伝わる。遊びから学びがあるというところまではいかない。そこで、幼稚園の視察、教員研修の参加をさせていただいて、教師トレーニングということが私なりに理解できたように思う。

4. 担当のワークショップについて

子どもと教師が楽しむものとしての1つ、手遊び、パネルシアターを紹介した。「キャベツの中から」と世界中で知られている絵本「おきなかぶ」である。馬場さんに、シンハラ語に通訳していただきながら進める。日本の幼稚園の教育は、子どもの興味や関心を示す「遊び」を中心に幼児教育をしていて、子どもとともに楽しむことを教師は考え、工夫することを伝えながら、パネルシアターで、話や歌を入れながら進める。教師はしながら、子どもも参加できるようにしていくことを説明する。手遊びも、馬場さんの研修の中での

手遊びを経験されているので、興味をもっていただいた。パネルシアターはお話を進めるだけではなく、演じる者と、見ている側と一緒に参加できるように、身体表現も入れながら楽しく進めることに努めたが、どこまで感じていただけたらうか。しかし、にこやかにあっているのは真剣なまなざしを感じることができた。あと2~3グループで、2種類のパネルシアターを楽しそうに演じていた。パネルの中の、キャベツ、蝶々、花は皆さんの身近に見る物で、理解していただいたようだ。

この後、プログラムは幼稚園の安全管理や、整理整頓の方法の講義があり、午後からは歌唱指導と表現遊び、絵カードを使った、数、量、大小などを教える方法の講義であった。意味としては、5領域の内容が含まれている。教員は子どもたちを指導する立場としてのトレーニングで指導方法を身につける研修であると感じた。技術、技能を養成する立場として、相通じる面もある。

5. おわりに

気候や、自然環境はとてもよく、人々は笑顔で毎日幸福に日々を

過ごしていると感じる半面、経済的な支援を必要としている面もある。国民性、文化、習慣もそれぞれあるが、そこにいる教員の皆さんが、創意工夫することで改善される部分がまだまだあるのではないかと、その方法を見出すとよりよい幼児教育ができるのではと思う。豊かな身近な自然を保育にとり入れると、子どもの遊びがもっと広がるのではと感じた。大人が教えることと、子ども同士で学びあうことが大切であることを気付く機会をこれからも作ることが大事であると感じた。

現代の日本は物質面の豊かさはあるが、精神面の豊かさが問われている。そこにも、創意工夫が必要なのである。

スリランカハプタレー地区の教員研修会に参加させていただき、幼児教育を教員の立場からと子どもたちの立場からとを考える貴重な機会を与えていただいたことに感謝して、今後、保育者養成校の指導的立場の一員として、研鑽を積んでいきたいと思う。

(報告書は紙面の都合上一部編集しています。全文はHPに掲載)



三井さんを囲んで研修の受講者

広島原爆から奇跡的に残ったピアノの調べ ヒバクを考える「被爆ピアノ演奏会」を開催

広島原爆記念日の前夜の8月5日、京都市の龍谷大学アバンティ響都ホールで広島原爆を受けたピアノを使った演奏会を開き、約150人の来場者がそのピアノの響きに耳を傾けました。

被爆ピアノは66年前、広島市の爆心地から2キロ足らずの距離で被爆し傷だらけになりながらも何とか残り、11年前に広島に住む調律師、矢川光則さんが譲り受けました。自らも被爆二世である矢川さんは父親から聞いた被爆の体験がよみがえり、このピアノで平和のためのコンサートを開こうと決意し、国内のみならず2010年にはニューヨークでのコンサートも実現させました。

JIPPOは演奏会の実行委員会「響流十方会」を後援し運営にあたりました。演奏者にピアニストの福田直樹さんを迎え、福田さんの選曲で祈りをテーマにしたバッハの前奏曲「アリア」のほか、戦争で国を失った苦しみと未来の希望を込めたショパンの名曲「英雄ポロネーズ」など5曲を演奏。その戦前のわずかな時期に作られたという85鍵のアップライトピアノは、痛々しい表面の傷あととは裏腹にピアノ線もアクションも一つもかけることなく手入れされ、福田さんが「本

当によく音が出る」と驚くほど鮮明な音を響

かせていました。終了後、ピアノとの触れ合いコーナーを設けました。観客もピアノを囲み、触ったり音を鳴らしたりして被爆の歴史を感じていました。



ピアノについて語る矢川さん

演奏会での主催者メッセージより

8月6日は広島原爆の日、9日は長崎原爆の日です。

明日の広島市の平和宣言では「人類と核は共存できない」との故森滝市郎・広島県被団協初代理事長の言葉が引用され、被爆者の声とエネルギー転換への提言、核の平和利用への疑問も提言されます。

しかし、世界の人類と核の歴史は、多くのいのちを奪ってきた歴史です。1945年広島へのウラン型の原爆投下、長崎へのプルトニウム型の原爆投下、1954年ビキニ環礁での水爆実験による第五福竜丸の被曝、1979年スリーマイル島の原発事故、1986年チェルノブイリの原発事故、2011年福島第一原発事故、6度の核被害の内4度の被ばくは日本です。まさに、日本は被ばく国なのです。

被ばく国になってから10年後、1955年頃、米国では広島で原子力平和利用博覧会を開催することや原子力発電所を建設することが計画されました。この博覧会は東京から始まり全国11都市を回り、終わると同時に1957年東海村に「原子の火」がとりました。

核の平和利用の名の下に豊かな生活を追い求め、大切なものを見失ってきたのです。そのことが、今回、3.11の福島第一原発事故によって明らかになりました。

原発と原爆は違うという詭弁、経済を優先し沈黙をした科学者達、核の絶対否定と反核運動の低下等、多くのことが核の平和利用と言う美名のもとに一般化してしまいました。一般化ではなく見過ごしてきたのでしょうか。無責任であった私たちが問われています。

核軍縮と核の平和利用が両立するはずもありません。エネルギー転換政策は必然ですが、脱原発をはじめ、核廃絶に向けての取り組みこそ、今求められています。核は脅かしの兵器であって実際には使用できないでしょう。課題は一つ、人類から核がなくなることです。

「ノーモア・ヒバク」「安らかに眠って下さい 過ちは 繰返ませぬから」という言葉は過去の言葉ではなく、今、私たちの胸に突きつけられている言葉です。

私たちがあゆむ道は、自己中心の我欲との葛藤、心の浄化と平安を求めることから始まります。

次に我欲の認知とその否定の実践の始まりは、人格の向上を促します。そして我欲から解放されることが、社会的事実の認識となり、社会の浄化につながります。これらの経過が、いのちの尊さのめざめと実践です。国土の平和の実現です。

今、世界では人類の課題として、平和・環境・人権へ取り組みが三課題となっています。私たちひとりひとりもこの課題に取り組んでいきましょう。未来を託す子供たちのいのちを奪ってはなりません。その環境を破壊してはなりません。

被ばくピアノは私たちに語りかけ続けています。「たしかな願いをもって生きて下さい」「すべてのいのちはどうなってもいいのですか」66年間ピアノは訴え続けてきました。

本日はピアニスト福田直樹「被ばくピアノ演奏会」にご来場賜りありがとうございます。今後も福島支援のための企画を継続していきます。次回からは皆さんと共に支援を考えていきましょう。

演奏する福田さん





JIPPOは設立以来、貧困問題、環境問題に対する取り組みとして、フェアトレードを通じ、社会的に厳しい状況にある生産者の生活環境の向上支援事業を展開しています。古い体質が残るスリランカの紅茶プランテーション農園の労働者、独立間もない東ティモールのコーヒー生産者組合。ただ単にフェアトレードと呼ばれる商品を販売するだけではなく、生産者と交流し関係性を深めることで共に生きる世界を目指しています。

フェアトレードとは「公正な貿易」とも訳され、仕入れ値に最低価格を保証することと、地域社会に役立てるための報奨金が含まれています。JIPPOは購入した時点でフェアトレードの基準をクリアしていますが、独自の支援として販売収益の一部を貯めて生活改善の事業を行うことを目標としています。今回、価格についてもJIPPOの事業が適正に行われるよう、包装のリニューアルを機に見直しました。

オーガニック栽培。茶葉とテトラティーバッグの2種類



JIPPOのフェアトレード商品が新しくなりました

プレゼントに、法要の記念品等にJIPPOのフェアトレード商品がさらに使いやすくなりました。ご要望が多かった「カフェ・ティモール」にレギュラーコーヒーの粉と豆（200g入り）を加え、5つの商品で装いも新たにラインナップ。JIPPOはこれからも生産者と顔の見えるフェアトレード事業を展開していきます。

ドリップコーヒーは有機
JAS認証マーク付き

商品一覧

ウバ紅茶	リーフ	ティーバッグ
内容量	100g	2.5g×20個
カフェ・	ドリップパック	粉・豆
内容量	8g×8個	200g
新価格	一般価格	会員価格
	900円(税込)	700円(税込)

※別途送料がかかります

ドリップパックの3つ～5つ入りミニパック、詰め合わせギフトもご相談ください。ご注文、お問い合わせはJIPPOまで





第28回全国地域・寄せ場交流会
2011京都 開催のお知らせ

京都市内で野宿者の人権や生活支援を行っている個人・団体が実行委員会をつくり、9月24、25日の2日間「第28回全国地域・寄せ場交流会」を京都市の龍谷大学大宮キャンパスで開きます。JIPPOも貧困問題への取り組みとして京都市内の3つの河川で野宿者の支援活動を行っていることから実行委員会に加わり、後援します。

この交流会は、全国の野宿者やその支援者が年に一回一堂に会

し、抱える問題や経験を自由な雰囲気の中で共有し交流することでまた次への活力につなげることを目的に、全国4つの地域が持ち回りで行っています。

今年は東日本大震災を受け原子力発電所で働く日雇い労働者の方にお話いただくとともに被災地での野宿者の現状について報告をお聞きします。また野宿者支援の活動の

中で多くの支援者が抱えるジェンダーの問題についても全体会で話し合います。

そのほか分科会では、野宿者への弾圧、襲撃事件の背景、就労、貧困ビジネス、中毒症、宗教者と野宿者など13の課題に分かれ意見を交換します。

参加を希望される方はJIPPOまでお問い合わせください。

日 程： 9月24日(土)午後1時半～全体会、4時～分科会1
25日(日)午前9時半～分科会2、午後零時半終了
場 所： 龍谷大学大宮キャンパス(京都市下京区)
参加費： 千円(1日のみ、両日とも)
実行委員会のブログ： <http://yosebakouryuukai2011.seesaa.net/>

JIPPO インフォメーション

**JIPPOの東日本大震災復興支援事業への寄付に
ご協力ください**
(この寄付は京都地域創造基金の指定事業として
税制優遇が受けられます)

JIPPOは東日本大震災の被災地でも特に福島第一原発事故の被災者支援に力を入れ「原発事故の被災者生活再建と子どもたちの日常を取り戻す事業」が京都地域創造基金の指定事業に選ばれました。子どもたちの野外活動、福島の物産販売などこれからも復興事業を展開していきます。皆様のご協力をお願いします。
郵便振替 口座記号番号:00930-4-312262
加入者名 京都地域創造基金寄付口座
※ 通信欄に「JIPPO」とご記入ください。
(JIPPOへの会費納入、通常の寄付とは別の口座ですのでご注意ください)
税制優遇についてのお問い合わせは、公益財団法人京都地域創造基金(TEL:075-354-8792)またはJIPPOへお問い合わせください。

総会報告

6月23日、本願寺派宗務総合庁舎にて第三回通常総会を開催し、JIPPOの2011年度事業計画および予算、役員について報告いたしました。また、2010年度事業報告と決算について協議を行い、可決されました。

9月の野宿者支援

9月28日(水)、29日(木)京都市内の山科川、東高瀬川、西高瀬川を巡回します。

事務局長が変わりました

JIPPO事務局長が本願寺派社会部人事異動に伴い7月1日付で変わりました。
新事務局長： 楠 秀峰 (本願寺派社会部長)

～事務局だより～

8月5日に被爆ピアノ演奏会を開催しました。ピアノは66年前に広島で被爆しましたが、矢川光則さんが譲り受け、修復し、皆さんの心に響くような音色を福田直樹さんが演奏して下さいました。原爆のことを考えさせてくれる深い時間を過ごすことができました。(や)

JIPPO会報第6号 (2011年8月30日発行)
発行： 特定非営利活動法人 JIPPO
〒600-8501 京都府京都市下京区堀川通花屋町下ル
本願寺門前町本願寺内
TEL : 075-371-5210
FAX : 075-371-5240
e-mail : office@jippo.or.jp
URL: <http://jippo.or.jp>